

平成28年度 第3回 伊勢市地域自立支援協議会 議事録

開催日時	平成29年3月16日(木) 午後19時00分～午後20時30分
開催場所	御薊公民館 講堂
出席委員	宮崎 吉博会長、市川 知律副会長、小林 えり子委員、杉田 宏委員、齋藤 茂委員、 三宅 浩委員、中谷 大介委員、中川 肇委員、前田 泉委員、中森 忠司委員、 中川 悦子委員、田中 郁子委員、泰道 詞子委員
事務局	健康福祉部次長 高齢・障がい福祉課長、係長、他2名 こども課(こども家庭相談センター) 1名 学校教育課 1名 伊勢市障害者総合相談支援センター フクシア職員2名
その他	伊勢志摩圏域アドバイザー 1名
傍聴者	6名

1 あいさつ

○宮崎会長あいさつ

障がい者の就労を支えるためにも、就労施設への優先調達が定着していくかどうか課題。

2 伊勢市障害者施策推進協議会について

○事務局より、資料に沿って説明。障害者基本法に基づく付属機関が伊勢市には無かったため、平成29年度より施策全般を協議する伊勢市障害者施策推進協議会を立ち上げ、現在の伊勢市地域自立支援協議会を廃止し、各委員には施策推進協議会へ就任していただきたい。なお、設置条例は3月議会に上げている。施策推進協議では、差別解消法や手話の関係など所掌事務がいくつか追加となる。

【各委員主な意見】

・運営会議等はどうなるのか？

⇒現在の自立支援協議会は部会となる見込み。その中で細かく協議等が必要となれば、プロジェクトチームを立ち上げる。現状と大きく変わらない。

・自立支援部会へは、このメンバー全員が行くのか？規模が小さくなるのか？

⇒現在の各委員は施策推進協議会の委員をお願いしたい。部会は施策推進協議会委員の中から1人入っていただき、部会の残りの委員は臨時委員での構成となり、規模は小さくなる。

3 プロジェクトチーム報告・提案について

○事務局より、資料に沿って説明。

直B問題チームにて何度も検討を重ねた結果、最終報告・提案となる。

【各委員主な意見】

- ・利用者が希望するサービスを利用できるようになればいいと思う。就業・生活支援センター等が行うアセスメントの項目だが、職場の環境配慮等は事業所だけでは難しいと思うので、個々に応じた環境のところまで評価をお願いできれば、よりご本人の社会参加に繋がると思うので検討をお願いしたい。
 - ・特別支援学校等へ来ている時間は、それはそれで子どもらにとって大切な時間であるので、アセスメントを長期休みにするなど、アセスメントを受ける時期も検討して欲しい。
 - ・相談支援体制を組んでもらっているが、相談員そのものの質の向上や研修が必要と思う。本当に障がい者の側に立った配慮がされているのか不明な点もある。今までの知識だけでは不足な場合もある。その場合は複数で対応するなど考えて欲しい。
- ※協議会としての行政への提案としたい。是非とも、障がい特性に応じた就労アセスメントのルートの整理・確立をして欲しい。

4 プロジェクトチーム検討状況報告について

○事務局より、資料に沿って説明。

伊勢市版地域生活支援拠点のあり方を検討していくためには、分析や具体的な機能を検討するための専門的な協議をする場が、まずは必要と考えている。

今後は運営会議にて、具体的にメンバーを選定し、伊勢市版地域生活支援拠点の検討を進めていきたい。

また、専門的な協議の場は、3月中に動き出し、継続して4月以降も動かしてもらいたい。

【各委員主な意見】

- ・面的整備と言われているが、具体的に現状で地域生活支援拠点をどれだけの人が必要としているのか等、現時点でどれぐらい把握しているのか？
⇒24時間対応のヘルパー事業所等が不足している。その点を手厚くしていくことで、地域で安心して生活していただける人が増えていくと考えているが、具体的な部分はこれから把握していく予定である。
- ・今から本格的に把握していくということか？
⇒そうである。
- ・緊急時の受け入れだが、伊勢市では短期入所の利便性が悪いと思うので、緊急時以外でも短期入所が受けやすくなればと思う。また、重度の医療が必要な方の受け入れも検討していくべきと思う。
⇒短期入所については、前々からの課題である。4月からは高齢者のデイサービスセンターを障がい者の短期入所と生活介護の事業所へ転換する。短期入所は、新たに4床ほどできるため、重度の身体で医療的ケアを必要とする方も受けて頂けるように施設整備をしている。また今後、地域生活支援拠点を検討していく中で、どのような部分が必要かも検討していく予定である。
- ・全てが計画相談と連動していると思う。短期入所を利用している方が、本当に利用が必要な方なのか、他の選択肢はないのかなども含め、当事者のニーズがどこにあるのか、それに対応する社会資源があるのかなどを整理していく必要があると思う。
また、予算の算出根拠も部会で考えていってもらい、必要な予算措置も検討していくなど議

論して行って欲しい。

- ・アンケートについては、4期のアンケートでは拾えなかったニーズを新たに組み込めるのか？また、いつ・どれぐらいの数をする予定なのか？
⇒配布は6～7月を予定している。数ははっきり確定していないが、前回は3,000件程度であった。今回は障害福祉計画のみであるため、どうアンケートに組み込むか、少し数を絞るか等も含め検討していく予定である。
- ・声を丁寧に掘り起こせば限りないが、声を上げられない人、出しにくい人もいるので、アンケートとあわせ整理をして行って欲しい。

5 平成 29 年度優先調達方針について

○事務局より、平成 28 年度の調達実績、平成 29 年度の調達見込み及び平成 29 年度の調達方針を資料に沿って説明。

【各委員主な意見】

- ・役務のその他の数が、平成 28 度は 28 件で、平成 29 度は 7 件の見込みで減っているが、何か理由があるのか？
⇒生活保護関係の財産処分や遺品整理の影響である。こちらは予定では見込めないためである。
- ・社会的事業所は増えていく見込みがあるのか？
⇒現時点では、伊勢市では増える見込みは厳しい状況である。

6 障害者虐待報告・平成 29 年度取組み報告について

○事務局より、通報状況・事業計画等について報告。

【各委員主な意見】

- ・虐待防止の啓発はいいと思うが、差別解消法も施行されており、差別解消法の啓発はどうか？セットで啓発したほうがいいのでは？
⇒差別解消法の啓発については、障がい者サポーター制度が障がいについて理解してもらい差別や偏見を無くしていこうという主旨があるため、サポーター研修会を年 3 回ほど開催するときに、虐待防止の啓発もする予定である。
- ・通報件数だが、どんな人から通報があるのか？
⇒本人からの通報もあるが、計画相談や事業所職員であることが多い。
- ・周りの体制をどう組んでいくかが大切である。差別解消法ってなんだったんだという 1 年であった。意識が進んでいない。障がい者が声を上げられない状況が進んでおり、相模原の事件も起こってしまった。研修も、もう一步踏み込んでいく必要があると思う。件数が増えた減ったでは無い。1 件の持つ重さが大切であり、この協議会でも考えていけたらと思う。

7 障害福祉計画などの公表報告について

○事務局より、前回までに協議した障害福祉計画の実績等を公表したことについて報告。

8 障がい者サポーター制度実績報告について

○事務局より、障がい者サポーター制度の実績等について報告。

【各委員主な意見】

- ・認知症サポーターもそうだが、サポーターを養成し、その後どのような活動をしていくのかも考えていく必要があると思う。高齢者でも当事者や家族の理解が難しいのでいっしょに考えていけたらと思う。
- ・どのような活動をしたかを把握する方法はあるのか？
⇒現時点ではサポーターの役割に報告という視点はない。まずは、障がいや障がいのある人を理解してもらい差別や偏見を無くし、ちょっとしたサポートが当たり前ができる町を目指している制度である。ただ、実績把握も機会があれば検討していく必要もあると考えている。また、もっとやってみようと思っていた人には、例えば障がい者体育祭にボランティアで参加してもらうとかの機会で障がい者と触れ合ってもらい、さらに障がい者や障がいへの理解を深めてもらいたいと考えている。
- ・次のステップに進める取り組みがあるとありがたい。

9 (3) その他について

○なし。